

2026 年 7 月 22 日 全 8 頁

Indicators Update

2026 年 6 月貿易統計

輸入金額は過去最大/4-6 月期外需寄与度は+0.3%pt 程度を見込む

経済調査部

エコノミスト

秋元 虹輝

[要約]

- 2026 年 6 月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+19.3%と 10 カ月連続で増加し、季節調整値も前月比+0.5%と 4 カ月連続で増加した。ただし、輸出数量は前年比+0.2%にとどまり、季節調整値では減少した。輸入金額は同+25.4%と 5 カ月連続で増加し、季節調整値も前月比+6.6%と増加した。貿易収支は、輸出数量が伸び悩む一方、原油などの代替調達の進展等を背景に輸入数量が回復したことから、▲4,069 億円、季節調整値でも▲8,820 億円と、ともに 2 カ月連続の赤字となった。
- 中東情勢の影響で、中東向け自動車の輸出台数は前年比▲44.7%と大幅に減少したが、5 月の同約 8 割減からは持ち直した。また、原油及び粗油の対世界輸入数量は同 1 割程度減少したものの、同 6 割程度減少した 5 月からは大幅に改善した。中東からの輸入の減少幅が縮小したほか、米国からの原油及び粗油の輸入数量が同 5.6 倍と急増するなど、調達先の多角化の動きが見られた。
- 2026 年 4-6 月期の実質 GDP 成長率におけるサービスも含めた外需寄与度は+0.3%pt 程度を見込む。中東情勢の影響で鉱物性燃料輸入は減少したものの、代替調達の進展から減少幅は一定程度抑制されたことに加え、電算機類等の輸入が増加したことから、財輸入全体の減少は限定的だったとみられる。
- 輸出数量（季節調整値）は前月比▲1.3%と減少したものの、均して見れば横ばい圏で推移した。米国が小幅に増加したほか、前月減少した反動もあり中国や EU 向けが増加した。一方、アジア向けは減少した。中国向けは 3 カ月ぶりに増加したものの、振れを均せば減少基調が継続した。
- 先行きの輸出数量は AI 関連需要が引き続き下支えに寄与するものの、中東情勢の影響が残り、全体としては横ばい圏で推移するとみている。もっとも、中東情勢の帰趨は依然として不透明であり、物流停滞や再燃しつつある資源高が長期化するリスクには留意が必要だ。

【貿易金額】輸出数量は伸び悩む一方、原油輸入回復で貿易赤字が拡大

2026年6月の貿易統計によると、輸出金額は前年比+19.3%とコンセンサス（同+17.9%、Bloomberg 調査）を上回り、10カ月連続で増加した（**図表1**）。輸出金額の増加は、価格（前年比+19.0%）の上昇が主因であり、輸出の実勢を示す数量は同+0.2%と力強さに欠ける。輸出価格の上昇は円安効果に加え、旺盛な AI・半導体需要を受けた半導体等電子部品や非鉄金属の価格上昇、中東情勢を受けた石油製品の価格上昇などが背景にある¹。中東向けの自動車輸出台数は同▲44.7%と依然低水準ながら、5月の同約8割減からは持ち直した。輸出金額の季節調整値は前月比+0.5%と4カ月連続で増加した（**図表2左**）。輸出数量（以下、数量と価格の季節調整値は大和総研による）は減少した一方、輸出価格が上昇した。

輸入金額は前年比+25.4%と5カ月連続で増加し、単月では過去最高を更新した（**図表1**）。主因は価格上昇（同+24.0%）だが、代替調達の進展などを背景に輸入数量（同+1.1%）も3カ月ぶりに増加した。中東情勢の影響で5月は原油及び粗油の対世界輸入数量が同6割程度減少したが、6月は同1割程度の減少にとどまった。中東からの輸入の減少幅が縮小したほか、米国からの輸入数量が同5.6倍と急増し、ASEAN、ロシアからの輸入も増加するなど、調達先の多角化の動きも見られた。輸入金額の季節調整値は前月比+6.6%と増加した（**図表2右**）。

貿易収支は▲4,069億円、季節調整値では▲8,820億円と、ともに2カ月連続の赤字となった。輸出数量が弱含むなか、代替調達の進展等を背景に輸入数量が回復したことで赤字幅が拡大した（**図表3**）。2026年4-6月期の実質GDP成長率におけるサービスも含めた外需寄与度は+0.3%pt程度を見込む。中東情勢の影響で鉱物性燃料輸入は減少したものの、代替調達の進展から減少幅は一定程度抑制されたことに加え、電算機類等の輸入が増加したことから、財輸入全体の減少は限定的だったとみられる。

図表1：貿易統計の概況

		2025年			2026年						
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
原系列 前年比 %	輸出金額 コンセンサス DIRエコノミスト予想	3.6	6.1	5.1	16.8	4.0	11.5	14.8	16.8	19.3 17.9 19.6	
	輸入金額	0.8	1.4	5.4	▲2.6	10.3	11.0	9.9	12.5	25.4	
	輸出数量	▲1.3	0.4	▲1.3	8.8	▲0.9	3.6	3.4	0.4	0.2	
	価格	5.0	5.7	6.4	7.3	5.0	7.5	11.0	16.4	19.0	
	輸入数量	1.3	3.6	2.9	▲0.6	12.2	2.4	▲3.4	▲6.8	1.1	
	価格	▲0.5	▲2.2	2.4	▲2.0	▲1.6	8.4	13.8	20.8	24.0	
	貿易収支(億円)	▲2,429	3,060	947	▲11,658	366	6,312	2,823	▲3,918	▲4,069	
季節 調整値 前月比 %	輸出金額	0.3	4.6	▲0.3	10.1	▲5.4	1.4	1.8	1.4	0.5	
	数量	▲0.3	2.0	0.0	4.0	▲2.5	3.0	▲2.3	0.5	▲1.3	
	価格	0.6	2.6	▲0.3	5.9	▲3.0	▲1.5	4.2	0.9	1.8	
	輸入金額	▲1.3	3.1	1.0	3.8	3.8	▲3.1	0.4	5.3	6.6	
	数量	▲1.4	1.1	▲1.4	1.9	4.8	▲6.6	▲2.3	0.0	5.8	
	価格	0.1	2.0	2.4	1.9	▲0.9	3.7	2.8	5.3	0.8	
	貿易収支(億円)	▲872	485	▲784	5,280	▲4,309	320	1,720	▲2,211	▲8,820	
	税関長公示レート	149.51	153.17	155.86	156.91	155.65	156.60	159.27	158.29	159.69	

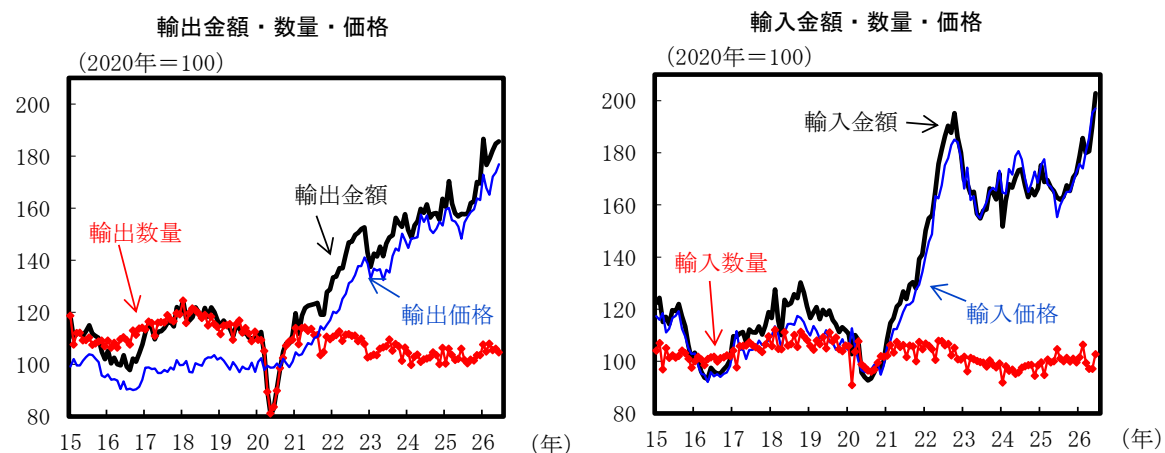
(注1) 税関長公示レートは円/ドルレート。コンセンサスはBloomberg。

(注2) 数量と価格の季節調整値は大和総研による。

(出所) 財務省、Bloomberg より大和総研作成

¹ 詳細は秋元虹輝「[新たな局面を迎えた中東情勢、原油価格高止まりで海外への所得流出は拡大へ](#)」（大和総研レポート、2026年6月16日）を参照。

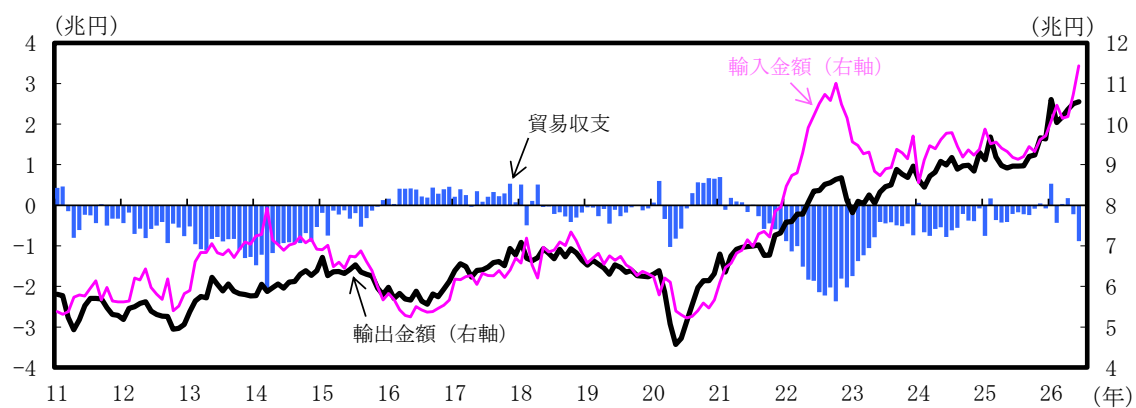
図表 2：輸出金額・数量・価格、輸入金額・数量・価格（季節調整値）



(注) 輸出数量、輸入数量、輸出価格、輸入価格の季節調整は大和総研。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

図表 3：輸出、輸入、貿易収支（季節調整値）



(出所) 財務省統計より大和総研作成

【輸出数量】前月から減少するも均して見れば横ばい圏で推移

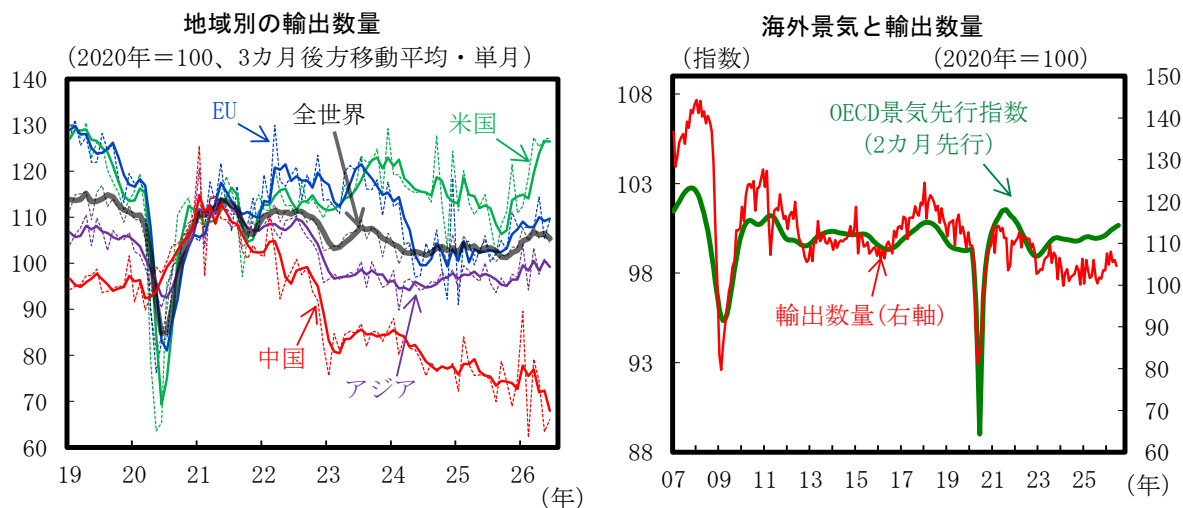
輸出数量（季節調整値）は前月比▲1.3%と減少したものの、均して見れば横ばい圏で推移した。米国向け（同+0.2%）が小幅に増加したほか、前月減少した反動もあり中国向け（同+4.0%）や EU 向け（同+3.9%）が増加した。一方、アジア向け（同▲1.8%）は減少した（図表4左）。

米国向けは2カ月連続で増加したが、均して見れば横ばい圏で推移した。電算機類（含周辺機器）や電算機類の部分品など、AI 関連財の一部で増加が見られた。一方、乗用車や、鉄鋼、半導体等製造装置は減少した。乗用車は前月増加した反動という面が大きく均して見れば高水準を維持している。ガソリン価格の上昇からハイブリッド車への需要が好調なようだ。

EU 向けは2カ月ぶりに増加した。振れの大きな船舶の増加が指数全体を押し上げた。乗用車も増加したほか、原動機やプラスチック、自動車の部分品などの中間財も増加した。一方、鉄鋼や非鉄金属、バス・トラックなどが減少した。

アジア向けは2カ月ぶりに減少した。中国を除くアジア向けは、乗用車が指数を押し下げたほか、プラスチックや鉄鋼など、主力の素材関連製品の減少が目立った。一方、集積回路（IC）や半導体等製造装置などの半導体関連財や、振れの大きい船舶は増加した。中国向けは3カ月ぶりに増加したものの、振れを均せば減少基調が継続した（図表4左）。半導体等製造装置の増加が指数全体を押し上げた。一方、内需の低迷や日本車の競争力低下などを背景に、乗用車や自動車の部分品などの自動車関連財は減少した。

図表4：地域別の輸出数量（季節調整値、3カ月後方移動平均・単月）、海外景気と輸出数量（季節調整値）



(注) OECD 景気先行指数 (CLI) は G20 ベース。輸出数量の季節調整値は大和総研作成。左図の実線は3カ月後方移動平均、破線は単月の推移を示す。

(出所) 財務省、OECD 統計より大和総研作成

【見通し】AI 関連需要の下支え継続も、中東情勢の影響が残り横ばい圏で推移

先行きの輸出数量は AI 関連需要が引き続き下支えに寄与するものの、中東情勢の影響が残り、全体としては横ばい圏で推移するとみている。もっとも、中東情勢の帰趨は依然として不透明であり、物流停滞や再燃しつつある資源高が長期化するリスクには留意が必要だ。

これまでのところ、各国・地域での政策対応（石油備蓄の協調放出、代替調達や需要抑制、財政支援など）²の効果もあり、中東情勢の悪化が世界的な景気減速を通じて輸出数量を大きく下押しする展開は回避されてきた。ただし、7 月上旬以降、米国・イラン双方の軍事行動が再び激化しており、原油高も再燃しつつある。悪影響が長期化すれば、海外の景気減速が輸出の逆風となる可能性も否めない。

米国向けは横ばい圏で推移するだろう。2026 年 7 月の消費者態度指数（速報値、ミシガン大学、調査期間は 6 月 23 日-7 月 13 日）は前月から上昇し、54.4 と 5 カ月ぶりの水準となった。ただし、今後の消費マインドの動向には注意が必要だ。足元では中東情勢再激化の影響により、米国の平均ガソリン販売価格（全米自動車協会、7 月 20 日時点）が約 1 カ月ぶりに 4 ドル/ガロンを上回った。燃料価格の高止まりが家計の実質購買力や消費マインドを悪化させるリスクがある。個人消費が下振れすれば自動車などの消費財の対米輸出に悪影響が及ぶとみられる。なお、米連邦最高裁判所が今年 2 月に無効とした相互関税等に代わる経過措置として導入された 1974 年通商法第 122 条に基づく関税が 7 月 24 日に失効する。トランプ政権は新たに 1974 年通商法第 301 条に基づく関税を検討しており³、トランプ関税は形を変えて継続するとみられる。

アジア向けは横ばい圏で推移するだろう。アジアにはエネルギーの中東依存度が高い国・地域が多い。これまでのところ景気の急激な悪化は回避されているが、資源高の再燃を受けてインフレが加速し、消費者の実質購買力を低下させれば、耐久財などの日本からの輸出の逆風となるリスクもあり、引き続き注意が必要だ。

アジア向けのうち中国向けは軟調な推移が見込まれる。中国の 2026 年 4-6 月の実質 GDP 成長率は前年同期比 4.3% となり、1-3 月の 5.0% から減速し、2026 年の政府成長率目標である 4.5%-5.0% の下限を下回った。中国の内需の弱さや、中国内の深刻な過剰投資問題が対中輸出を下押しする構図は当面続くとみられる。

欧州向けは緩やかな持ち直しが続くとみられる。2026 年 6 月のユーロ圏景況感指数（総合、欧州委員会）は、95.0 と 3 月以来の水準に回復した。もっとも、欧州経済は成長のけん引役が明確でなく、日本からの輸出の見通しの不確実性はなお高い。中東情勢の再激化に伴う資源高がインフレをどの程度押し上げるかが、今後の下振れリスクとして注目される⁴。

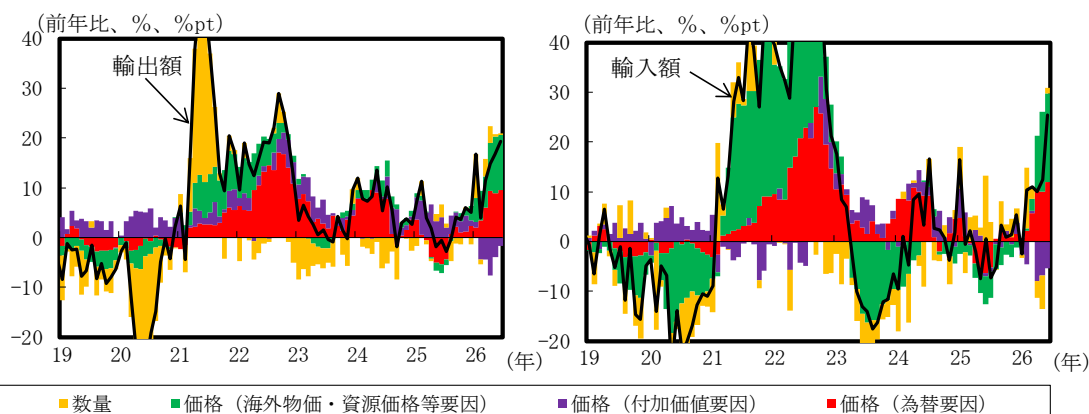
² 各国・地域の政策対応については内閣府「世界経済の潮流 2026 年 I 中東情勢の緊迫化と政策対応」（2026 年 7 月 17 日）などを参照。

³ 米通商代表部が 6 月に公表した原案では、対日関税率は 12.5% とされている。詳細は USTR “USTR Makes Findings and Proposes Action in 60 Section 301 Investigations Relating to Failures to Take Action on Trade in Forced Labor Goods”（2026 年 6 月 2 日）を参照。

⁴ 欧州中央銀行は 7 月 23 日の会合で追加利上げを見送ると報じられている。詳細は「ECB、7 月は利上げ見送りへ インフレ減速で追加対応急がず」（2026 年 7 月 21 日、日本経済新聞 電子版）

概況

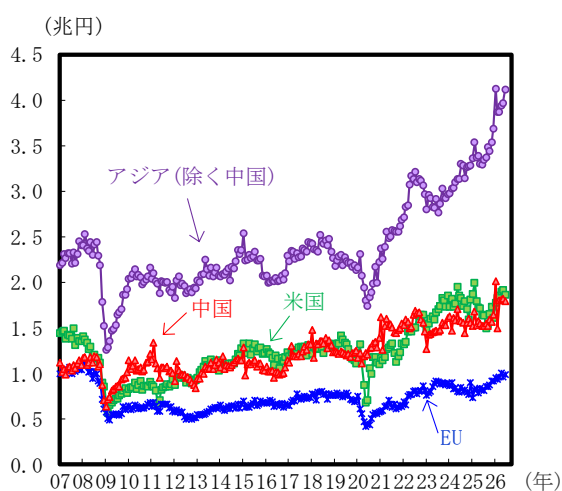
輸出額の変化とその要因分解



(注) 価格（付加価値要因）は、輸出（入）物価指数（円ベース）で実質化した輸出（入）額と輸出（入）数量それぞれの増加率の差。価格（海外物価要因）は、輸出（入）物価指数（契約通貨ベース）の上昇率。価格（為替要因）は、輸出（入）物価指数（円ベース）の上昇率と価格（海外物価要因）の差。

(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

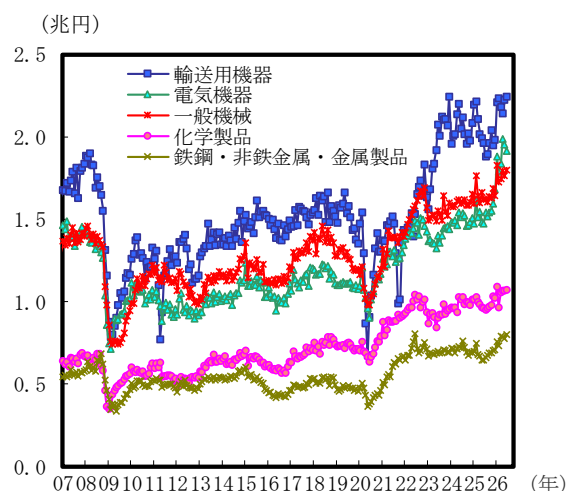
主要地域・国別の輸出額（名目、季節調整値）



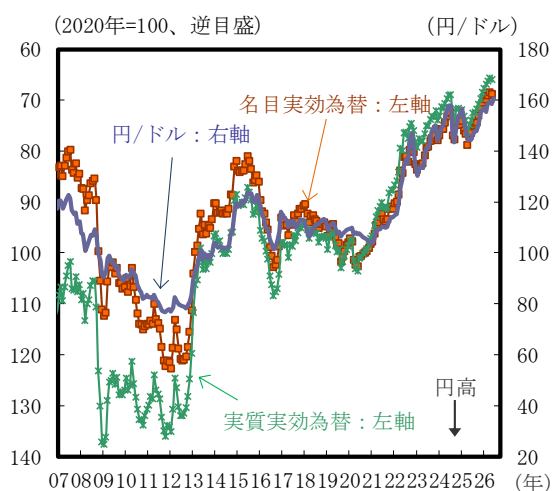
(注) 季節調整は大和総研。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

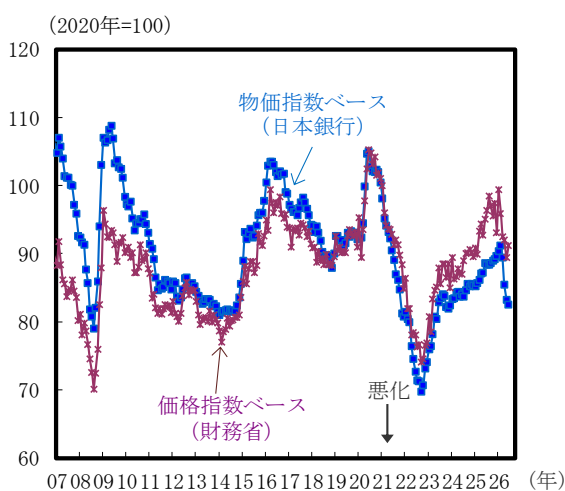
主要商品別の輸出額（名目、季節調整値）



為替相場



交易条件



(注) 交易条件は、輸出価格指数/輸入価格指数（輸出物価指数/輸入物価指数）。輸出入価格指数の直近値は大和総研による試算値。

(出所) 財務省、日本銀行統計より大和総研作成

輸出金額 内訳								
	2026/01	2026/02	2026/03	2026/04	2026/05	2026/06		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	16.8	4.0	11.5	14.8	16.8	19.3	100.0	19.3
食料品	31.2	3.5	9.1	15.3	13.8	7.7	1.1	0.1
原料品	22.5	13.9	28.2	24.2	35.8	39.9	1.9	0.7
鉱物性燃料	20.5	37.2	66.0	10.7	139.4	32.0	1.1	0.3
化学製品	8.1	▲6.2	5.7	8.8	10.9	11.3	10.0	1.2
原料別製品	8.9	▲2.6	12.6	15.3	16.6	19.9	10.7	2.1
鉄鋼	▲10.8	▲15.5	▲1.9	▲2.9	3.1	11.0	3.2	0.4
非鉄金属	36.0	17.6	44.7	48.7	46.5	47.8	3.1	1.2
金属製品	17.4	1.6	10.4	11.7	15.3	11.7	1.3	0.2
一般機械	14.3	▲2.4	6.0	12.5	6.4	10.9	17.2	2.0
電気機器	27.3	10.3	21.5	28.6	32.4	29.4	17.4	4.7
半導体等電子部品	38.5	25.1	29.3	41.6	61.2	53.8	6.7	2.8
I C	40.6	32.3	30.7	43.9	74.0	58.8	5.0	2.2
映像機器	12.8	1.6	17.2	16.9	2.8			
映像記録・再生機器	32.1	21.6	30.1	25.3	7.8	16.2	0.3	0.1
音響・映像機器の部分品	5.7	▲11.2	▲6.4	11.2	17.0	1.2	0.1	0.0
電気回路等の機器	22.9	1.0	13.2	16.1	14.5	17.7	2.0	0.4
輸送用機器	0.7	1.3	3.4	6.0	12.9	14.4	21.8	3.3
自動車	0.4	2.3	0.9	3.5	13.7	23.0	16.7	3.7
自動車の部分品	1.4	▲9.9	2.2	4.4	3.7	0.6	2.9	0.0
その他	39.4	16.4	18.1	18.1	16.8	27.9	18.8	4.9
科学光学機器	21.6	▲8.6	11.1	16.5	15.9	19.6	2.4	0.5

米国向け輸出金額 内訳								
	2026/01	2026/02	2026/03	2026/04	2026/05	2026/06		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	▲5.1	▲8.0	3.4	9.5	12.3	13.0	100.0	13.0
食料品	2.7	▲4.3	27.7	28.1	37.5	7.4	1.3	0.1
原料品	27.5	18.5	2.1	19.2	12.8	11.3	0.4	0.0
鉱物性燃料	▲34.8	173.2	212.0	237.5	1682.8	70.4	0.4	0.2
化学製品	▲30.7	▲16.1	▲7.1	7.2	2.5	▲12.6	6.0	▲1.0
原料別製品	2.2	3.9	8.7	16.8	20.7	5.7	6.5	0.4
鉄鋼	▲19.7	2.2	10.0	11.3	14.8	▲0.4	1.1	▲0.0
非鉄金属	27.1	33.2	7.1	44.6	85.1	13.8	1.1	0.2
金属製品	5.7	1.2	10.3	8.5	9.9	3.4	1.5	0.1
一般機械	▲1.0	▲0.5	3.1	15.4	1.5	3.5	22.2	0.8
電気機器	6.3	2.3	14.7	18.9	19.1	8.3	13.9	1.2
半導体等電子部品	▲13.9	▲11.4	▲9.4	4.6	61.6	9.5	1.0	0.1
I C	▲15.1	▲23.9	▲25.2	▲6.6	95.6	5.3	0.4	0.0
映像機器	▲13.7	1.9	0.5	9.6	14.0			
映像記録・再生機器	▲6.7	3.0	▲1.3	5.9	21.1	47.0	0.5	0.2
音響・映像機器の部分品	17.8	▲3.3	10.8	17.4	37.9	▲12.3	0.1	▲0.0
電気回路等の機器	8.7	▲0.2	3.5	3.3	19.7	13.8	1.3	0.2
輸送用機器	▲5.6	▲13.0	1.2	0.2	16.1	26.8	36.2	8.6
自動車	▲9.9	▲14.8	▲1.6	▲2.3	18.7	34.5	29.2	8.5
自動車の部分品	0.9	▲15.9	2.0	8.6	3.7	2.4	4.8	0.1
その他	▲8.4	▲20.6	▲2.1	10.6	11.1	20.5	13.2	2.5
科学光学機器	7.9	▲14.4	18.7	29.2	17.6	25.9	3.3	0.8

EU向け輸出金額 内訳								
	2026/01	2026/02	2026/03	2026/04	2026/05	2026/06		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	29.6	14.0	16.1	27.0	14.0	20.3	100.0	20.3
食料品	49.3	35.5	28.3	46.2	8.7	22.2	0.8	0.2
原料品	72.4	7.9	▲6.9	41.6	▲15.2	60.1	1.4	0.6
鉱物性燃料	121.0	45.6	▲62.4	48.2	▲1.3	14.6	0.1	0.0
化学製品	▲5.4	0.3	▲2.8	5.2	5.0	10.0	10.1	1.1
原料別製品	16.7	5.7	20.6	15.5	▲2.5	12.5	7.2	1.0
鉄鋼	▲0.7	1.9	59.3	6.1	▲5.9	10.3	1.3	0.1
非鉄金属	33.3	37.1	41.2	13.3	2.9	35.9	1.3	0.4
金属製品	25.6	9.5	6.8	18.1	▲1.0	15.1	1.4	0.2
一般機械	33.3	17.8	13.9	44.2	9.9	12.5	18.1	2.4
電気機器	25.0	20.2	21.8	27.7	6.3	12.5	15.9	2.1
半導体等電子部品	46.6	36.4	16.2	19.5	10.0	24.5	2.5	0.6
I C	92.6	100.5	73.0	16.6	23.9	50.3	1.1	0.4
映像機器	18.4	54.8	55.3	2.4	▲6.3			
映像記録・再生機器	33.1	74.7	68.6	7.5	▲1.2	▲15.0	0.7	▲0.2
音響・映像機器の部分品	5.9	4.7	1.7	2.1	▲8.6	7.1	0.1	0.0
電気回路等の機器	12.3	22.3	10.5	19.8	2.5	6.1	1.5	0.1
輸送用機器	49.6	11.1	13.3	36.0	32.1	40.8	28.6	10.0
自動車	67.6	26.3	21.1	48.2	56.5	60.0	22.4	10.1
自動車の部分品	22.9	▲18.4	▲4.8	1.1	▲19.0	▲6.8	3.0	▲0.3
その他	27.8	21.1	33.0	13.7	20.4	15.3	17.8	2.8
科学光学機器	16.7	▲6.9	8.0	19.4	18.2	13.1	4.4	0.6

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成

アジア向け輸出金額 内訳								
	2026/01	2026/02	2026/03	2026/04	2026/05	2026/06		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	25.7	2.7	15.9	16.1	19.4	22.7	100.0	22.7
食料品	42.9	▲0.4	7.5	11.5	11.4	12.0	1.3	0.2
原料品	22.6	14.6	36.1	25.0	43.4	42.6	2.9	1.1
鉱物性燃料	24.5	25.0	51.5	▲5.1	47.7	15.0	1.3	0.2
化学製品	20.4	▲5.0	9.7	11.3	14.6	18.6	13.4	2.6
原料別製品	13.6	▲0.5	15.1	18.0	20.5	25.1	13.3	3.3
鉄鋼	▲6.0	▲14.4	▲9.5	▲3.3	7.5	11.9	3.9	0.5
非鉄金属	33.5	20.6	49.0	50.1	44.3	55.1	4.9	2.1
金属製品	20.1	▲0.5	11.1	10.2	19.9	14.1	1.3	0.2
一般機械	19.2	▲12.7	8.2	7.1	9.2	14.9	17.3	2.8
電気機器	33.0	10.6	24.0	31.0	39.9	37.5	22.4	7.5
半導体等電子部品	42.2	27.2	33.1	44.5	64.8	57.7	11.2	5.0
I C	41.7	33.3	32.4	45.9	75.1	60.2	8.6	4.0
映像機器	16.6	▲13.6	14.6	18.9	1.0			
映像記録・再生機器	48.5	0.7	39.3	39.4	9.5	25.4	0.3	0.1
音響・映像機器の部分品	▲9.4	▲19.6	▲11.4	5.1	13.6	8.9	0.1	0.0
電気回路等の機器	27.5	▲1.8	16.6	18.0	14.8	19.2	2.7	0.5
輸送用機器	▲10.5	▲6.9	5.0	5.3	9.1	▲0.2	7.4	▲0.0
自動車	▲6.7	▲7.9	▲4.7	5.7	15.1	0.8	4.1	0.0
自動車の部分品	▲0.2	▲1.6	7.3	3.6	7.7	▲4.4	1.8	▲0.1
その他	50.7	17.6	20.7	15.4	11.8	25.3	20.8	5.1
科学光学機器	29.4	▲8.4	11.0	11.7	16.0	18.6	2.4	0.5

中国向け輸出金額 内訳								
	2026/01	2026/02	2026/03	2026/04	2026/05	2026/06		
	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	前年比%	構成比%	寄与度%pt
総額	32.0	▲11.0	17.7	15.5	17.9	17.6	100.0	17.6
食料品	43.6	▲23.8	16.4	0.2	▲7.2	7.3	0.6	0.1
原料品	64.3	35.1	57.8	44.2	77.7	61.5	4.8	2.2
鉱物性燃料	▲9.2	7.7	▲12.8	116.7	61.1	0.3	0.9	0.0
化学製品	36.5	▲16.6	16.5	8.5	11.6	14.3	17.5	2.6
原料別製品	25.5	▲18.4	20.3	17.8	18.9	18.0	10.9	2.0
鉄鋼	24.5	▲30.1	▲12.7	▲4.0	▲13.8	▲1.0	2.0	▲0.0
非鉄金属	16.7	▲10.6	56.5	47.8	59.6	39.6	4.5	1.5
金属製品	15.7	▲15.6	▲1.5	▲6.8	▲2.8	4.8	1.3	0.1
一般機械	33.4	▲22.5	8.9	▲4.2	▲2.7	6.9	22.5	1.7
電気機器	36.4	▲0.7	26.7	38.9	40.5	36.8	23.1	7.3
半導体等電子部品	48.2	39.5	44.1	88.6	84.9	77.5	10.1	5.2
I C	48.0	62.4	52.8	121.6	105.1	89.3	7.5	4.2
映像機器	17.9	▲26.9	12.0	30.1	▲5.2			
映像記録・再生機器	65.8	▲27.8	38.6	51.0	▲1.5	26.6	0.4	0.1
音響・映像機器の部分品	▲5.4	▲13.3	▲15.5	▲9.8	▲1.0	4.7	0.2	0.0
電気回路等の機器	26.5	▲16.6	16.6	12.9	11.4	14.3	3.2	0.5
輸送用機器	▲20.7	0.3	▲12.2	3.6	13.9	▲17.6	5.3	▲1.3
自動車	▲18.9	18.3	▲15.8	10.3	20.0	▲24.9	3.4	▲1.3
自動車の部分品	▲16.3	▲24.9	▲4.2	▲3.6	4.4	▲34.9	1.1	▲0.7
その他	50.1	▲9.8	29.4	18.1	18.4	23.1	14.4	3.2
科学光学機器	30.8	▲24.0	9.3	8.2	11.2	▲1.5	3.0	▲0.1

(注) 小数点の丸め方による影響で公表資料と完全には一致しない項目がある。映像機器は、速報時点では公表されない。

(出所) 財務省統計より大和総研作成